

これからの医療のあり方は、  
患者も、医療従事者も満足度が高い  
医療提供システムの構築をめざす  
患者のニーズとリスクの程度に応じたサービス提供方法

**1. タスクシフティングの推進**

NP、特定行為研修修了者の積極的養成と活用

**2. タスクシェアリングの推進**

看護師・社会福祉士・介護福祉士の基礎教育の検討

3職種<sup>①</sup>の教育内容に共通科目⇒共通言語をもつ

# 1. タスクシフティングの推進

## 医師から看護師へ看護職が担えること

① 『いくつかの診療』⇒一次救急レベル  
common disease (風邪、下痢など)

② 『いくつかの医行為』

\* 現在は38行為(特定行為:包括指示)

⇒NP、特定行為研修修了者の積極的養成と活用  
方略:診療報酬をインセンティブとして活用推進を図る

\* B001-2-5院内トリアージ実施料の要件とする

\* スライドNo4

成果

プライマリーケアの充実(慢性期の管理・重症化予防・異常の早期発見と介入)スライドNo5~11

クリティカルケアにおけるケアの充実(必要な時に必要なことを:迅速性・適時性)東京ベイ田畑先生の報告

## 2. タスクシェアリングの推進

### 看護師・社会福祉士・介護福祉士の基礎教育の検討

3職種の内容に共通科目⇒共通言語をもつ

①3職種の機能が充実する

②業務において、将来的にタスクシフティングに繋がる

看護師の強み：病態と病人の理解

社会福祉士の強み：社会制度とその活用

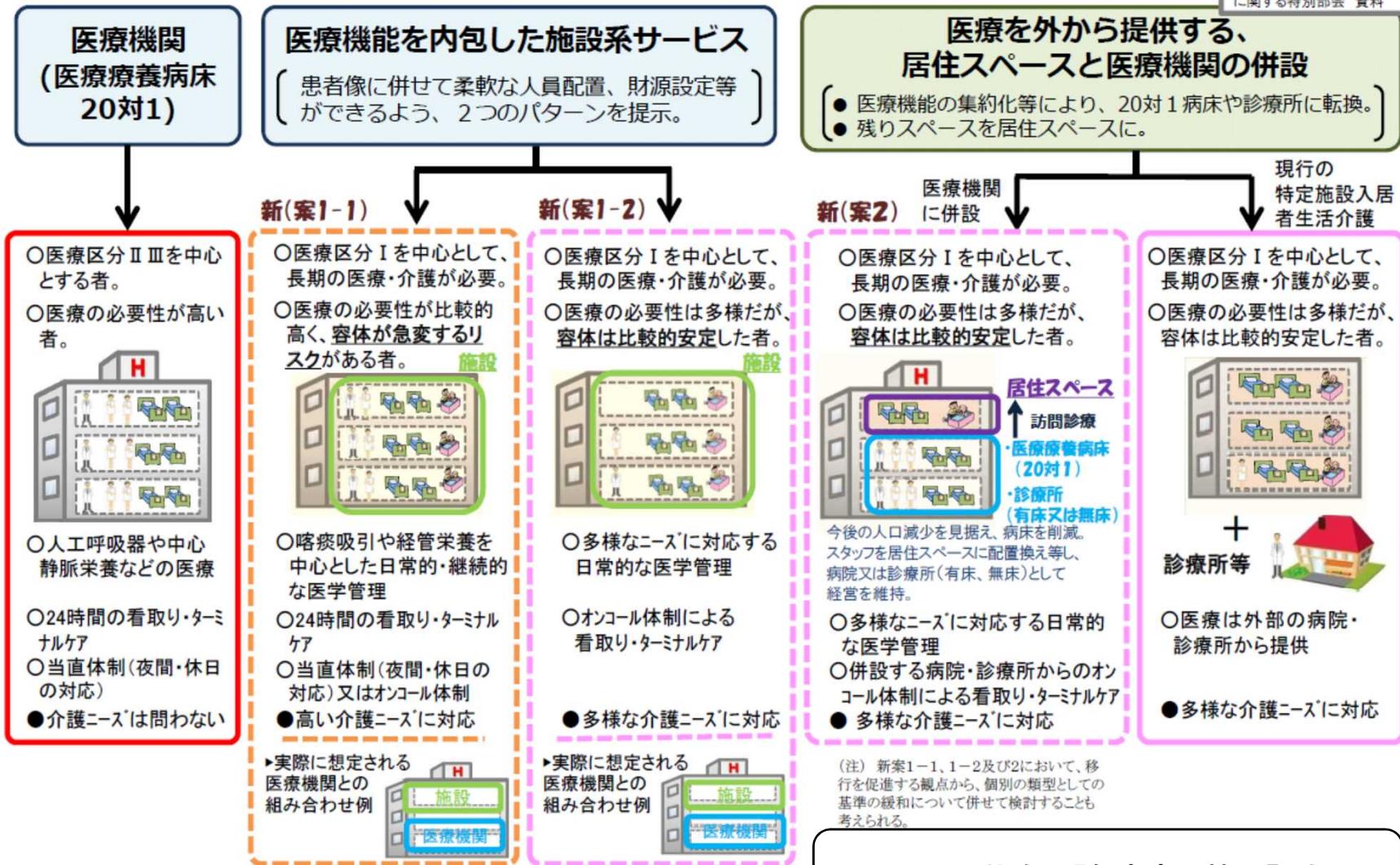
介護福祉士の強み：高齢者の生活支援

この3職種の強みを、3職種が共有・活かし発揮することが重要

\* 松田晋哉：医療のなにが問題なのか；「医療、介護、生活の多面的なニーズに対応できるケアマネジメントが必要。そのような人材として社会福祉士の資格をもった看護職が重要」P201

# 慢性期の医療・介護ニーズへ対応するためのサービス提供類型（イメージ）

第1回療養病床の在り方等に関する特別部会 資料

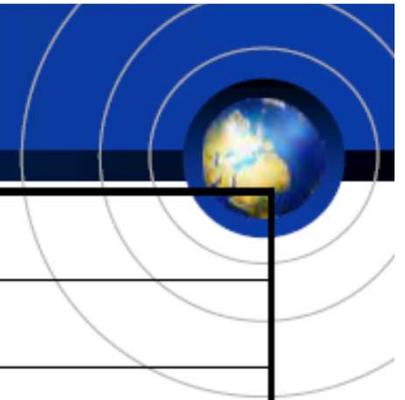


※ 介護保険施設等への転換を行う場合は、介護保険事業計画の計画値の範囲内となることに留意

NP活動を、診療報酬で評価

# 日本型NPの活動例①(老健鶴見の太陽)

## 鶴見の太陽概要



開設者	小寺 隆
施設長	荒木 康雄
施設種別	介護老人保健施設鶴見の太陽 48床
	短期入所生活介護鶴見の太陽 23床
	ユニット鶴見の太陽 20床
	グループホーム鶴見の太陽 9床
	通所リハビリテーション 定員 35名
職員数	平成26年4月1日現在:85名 医師1名 看護職員20名 事業対象看護師1名
指 定	厚生労働省プロトコール検証事業指定
特 徴	医療度の高い利用者の受け入れ(インスリン注射実施中) てこずり事例利用者の受け入れ(他施設が拒否した方) 等

# 日本型NPの活動例①(老健鶴見の太陽)

## 介護施設での対象看護師の業務内容



- ◇入所者及びショートステイ利用者の健康評価・アセスメント
- ◇身体所見・定期的なデータ管理
- ◇継続した内服薬の治療効果の確認⇒薬剤の調整
- ◇血糖値・血圧・CKGの評価
- ◇ワーファリン服用者のINR測定・評価
- ◇薬剤の副作用管理
- ◇薬剤選択時の助言
- ◇栄養状態の評価⇒管理栄養士とのコラボ
- ◇緊急時のファーストコール対応
- ◇緊急度の判断⇒医師につなぐ

# 日本型NPの活動例①(老健鶴見の太陽)

## キュアよりケアが主体



- ◇利用者・家族に対して病状説明
- ◇利用者・家族の希望を確認しながらケアプランに反映させる
- ◇利用者の視点に立ち、病院・関連医療機関の医師と連絡調整を行っている
- ◇施設内職員のスキルアップを目指し教育的関わりを実施
- ◇病院・施設の特定看護師ネットワーク事業で講師担当  
(地域のネットワークで看護職の質の向上に関与)

# 日本型NPの活動の成果①(老健鶴見の太陽)

## <老健での活動>

### —入所者の入院割合の減少

介入前 45.8% ⇒ 介入後 30.1% (p=0.001)

### —救急搬送件数の減少

介入前 7.3% ⇒ 介入後 2.3% (p=0.006)

ONO M., MIYAUCHI S., EDZUKI Y., SAIKI K., FUKUDA H., TONAI M., MAGILVY J.K. & MURASHIMA S. (2015)  
Japanese nurse practitioner practice and outcomes in a nursing home. *International Nursing Review* 62, 275–279

# 日本型NPの活動例②(長崎県壱岐病院)

長崎県病院企業団<sup>1)</sup>は、就学支援資金貸与制度<sup>2)</sup>を創設し、日本型NPを積極的に採用・育成・活用

## 1) 長崎県病院企業団

長崎県と島原地域、五島地域及び対馬地域、壱岐地域の6市1町の旧県立病院と旧離島医療圏組合病院を経営する一部事務組合

## 2) 看護師大学院就学支援資金貸与制度

大学院NP養成課程に在学する看護師に修学支援資金を貸与し、一定期間、企業団離島病院に勤務することで返還を免除する制度

**<今後の期待> 離島・僻地でのプライマリケアの提供**

# 日本型NPの活動例②(長崎県壱岐病院)

- 全人的に捉え、早期な症状・病態アセスメントをし、タイムリーな対応
- 社会背景に応じた患者指導、看護師教育

## <病院概要>

稼働病床数	178床(許可病床数228床)
標榜科	17科
医師数	常勤13名、 非常勤6.38名(常勤換算)
看護職員	87名(正職員)
職員数	259名(非常勤、委託含む)

## <求められる役割>

- ◆ 幅広い知識・技術をもち、病院内、島内のコーディネーター的な役割を果たすこと
- ◆ 都市部との格差を埋めるために、最新の医療技術を取り入れるための情報・実践能力
- ◆ 後方病院や介護施設が限られているため、患者への生活指導・患者教育を行い、予防医学に重点を置くこと

## <業務内容>

- ◆ 看護師からの相談や医師からのコンサルト
  - ・糖尿病(教育入院、悪性疾患除外、合併症精査)
  - ・感染症(肺炎、軟部組織感染症)
  - ・不明熱(感染症、膠原病、悪性腫瘍、薬剤性)
  - ・意識障害(代謝性疾患、電解質異常、低血糖)
  - ・外傷、めまい
- ◆ 初診糖尿病問診、外来通院中の患者指導
- ◆ 救急外来での初期診療(CPA, 意識障害, 肺炎)

## <介入例>

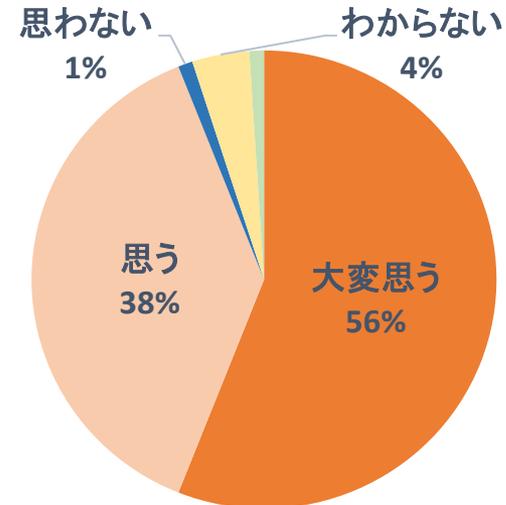
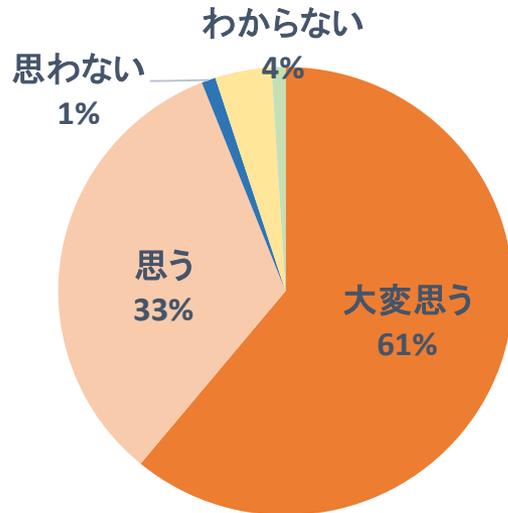
- ◆ 患者・家族の社会的背景を全人的に踏まえ、個人に応じた最適(最善)な治療を患者参加型で行う。
- ◆ 今後起こりえる事象や合併症を踏まえた薬剤について医師とディスカッションし、選択
- ◆ 入院から退院後もシームレスに関わり、継続して患者家族の相談者になる。

# 日本型NPの活動の成果②(長崎県壱岐病院)

## 大多数の職員が医療の質向上に資すると回答

NPが関わることは、医療の質を上げる

NPが関わることは、患者(家族)にとって有用



4月に入職した後、12月に全職員(回収率97.2%、n=217)を対象に調査を実施

- ・糖尿病管理(糖尿病専門医は島外から週1回来訪)  
医師と相談し、決め細やかな薬剤の調整による血糖コントロール
- ・陰圧閉鎖療法やハイフローセラピーなどの導入・定着
- ・ベッドサイドでの看護師教育を行うことで、看護職のモチベーションの向上⇒島外の研修会への参加率が向上

# NPに関する参考資料

# 諸外国のNPと日本型NPの違い

	NP (アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド) ※フランスは昨年制度創設	日本型NP※
国における資格制度	あり	なし
身分法	あり	なし(法律上の身分は看護師)
裁量	看護師とは異なり、下記の裁量が法律で認められている ・診断 ・薬剤処方 ・治療・処置の処方 など	看護師と同じ
教育	統一基準に基づき、認可された課程で実施	統一基準なし 日本NP教育大学院協議会認証課程 7校 日本看護系大学協議会認証課程 2校

※現在の日本にはNP制度はないが、大学院のNP養成課程を修了した看護師を「日本型NP」と記載する。

# 諸外国のNP制度の概要

- 大学院でNP教育を受けた看護師がNP免許を受けることで、看護師にはない裁量を得て、看護師とは異なる役割も担う仕組み

＜目的＞①医師の供給が限られる中での医療へのアクセスの改善  
②ケアの質向上 ③医療費の抑制

看護師としての知識・技術



＜大学院での教育＞

- ・医学的な知識・技術・思考過程・判断力
- ・新たな役割や責任について など
- ・300～500時間の実習を含む

国(または州)としてのNP免許

＜NPの役割＞

- ・診断
- ・スクリーニング、
- ・薬剤の処方、検査の指示
- ・予防・健康教育
- ・慢性疾患患者のモニタリング
- ・ケアのコーディネートなど

＜成果＞

- ・医療へのアクセスの改善
- ・待ち時間の短縮
- ・重症化の予防、ケアの質の向上
- ・患者満足度の向上
- ・コスト削減

◆ケアの質に関する検証結果◆

- ・医師と同等の質のケアを提供していた
- ・医師よりも高い患者満足度が示された
- ・患者アウトカムへの悪影響を示すものはなかった

# アメリカでのNPの活動(例)

## ■ 高齢者施設での疾病管理と状態悪化時の対応

要介護3~5の高齢者が入居する施設

看護師、介護職、リハビリ職、ソーシャルワーカーなどが配置

### <NPの活動>

- ・2週間に1回の定期診察
- ・検査指示、薬剤の処方、処置
- ・状態悪化時の対応
- ・療養生活の相談
- ・アドバンス・ケア・プランニング<sup>など</sup>

医師は施設と  
契約しており  
1回/2ヶ月往診

## ■ 外来での受診対応

地域のクリニック、医師3名、NP3名が診察

<NPの活動> 医師と分担し、一般的な内科診療を中心に担う

- ・糖尿病の血糖コントロール
- ・慢性疼痛のコントロール
- ・咽頭炎、膀胱炎や気管支感染症などの治療
- ・軽度の創傷処置・治療
- ・インフルエンザやB型肝炎などの予防接種<sup>など</sup>